

滋賀県文化振興基本方針(第3次)の関連事業一覧(重点施策順)

資料3-2

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
1	びわ湖ホール舞台芸術体験事業(「ホールの子」事業)	継続	県内の子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供するため、県内小学生等をびわ湖ホールに招き、オーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる音楽公演を実施する。	31,806	◎					○	⑤教育	○		○			○		新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	文化芸術振興課
2	びわ湖ホール管理運営費(びわ湖クラシック音楽祭)	継続	5/1～2に開催。令和2年度に中止となった小ホール公演を大ホールにて開催するとともに、有料ライブ配信も実施。	—	◎					○	②観光	○	○	○	○	○	○		新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	文化芸術振興課
3	びわ湖ホール管理運営費(ホスピタルコンサート)	継続	劇場を訪れにくい方にも舞台芸術に触れられる機会を提供するため、医療・福祉施設においてコンサートを実施する。(4公演を予定)	—	◎			○		○	④福祉		○					病院協会、福祉団体	病院3か所、福祉施設1か所で実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2公演を中止。 ・養護老人ホームきぬがさ(9/16) 101人 ・近江八幡市立総合医療センター(9/24) 120人	文化芸術振興課
4	びわ湖ホール管理運営費(学校巡回公演・ふれあい音楽教室)	継続	びわ湖ホール声楽アンサンブルと指揮者、ピアニストが市町立小中学校を訪問して、音楽公演を実施する。	—	◎			○		○	⑤教育	○		○			○		春の学校巡回公演は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。秋のふれあい音楽教室のみ実施。(12小学校で25公演)	文化芸術振興課
5	びわ湖ホール管理運営費(舞台芸術体験事業)	継続	びわ湖ホール中ホールにおいて、県内の公立小中学生や音楽を学ぶ高校生を対象にオペラリハーサルの見学会を実施する。	—	◎						⑤教育	○		○			○		1月に上演した「オペラへの招待『魔笛』」のゲネプロ見学会に、県内6小学校から688名の児童を招待した。	文化芸術振興課
6	文化施設管理運営費(アートコラボレーション事業)	継続	県内文化ホール、文化活動者・団体と協働連携し、県域ネットワークの構築、文化ホールの活性化を図る。市町ホール等からの提案事業のほか、県文化賞受賞者コンサート、おうみ狂言図鑑の協働制作事業を実施する。	—	◎	○	○					○		○		○	○		11事業のうち5事業が新型コロナウイルス感染症の影響により中止。実施できた6事業についても3事業が関連事業を中止するなど縮小することとなった。協働制作事業である狂言と県文化賞受賞者コンサートは開催することができた。	文化芸術振興課
7	文施設管理運営費(長栄座公演)	継続	イベントホール内に特設する芝居小屋「長栄座」において、国内トップレベルの邦楽演奏家等を迎え、本格的な古典芸能の公演を自主制作し、上演する。	—	◎				○	○	③産業	○		○					芝居小屋「長栄座」において2日間にわたり、国内トップレベルの邦楽演奏家・舞踊家・能楽師等を迎え、本格的な古典芸能の公演を自主制作し、上演した。入場者数436人。	文化芸術振興課
8	文化施設管理運営費(和のじかん、アートのじかん)	継続	舞台芸術への関心を高めるとともに児童生徒の健全な育成を図るため、小中学校、特別支援学校へアーティストを派遣し邦楽やクラシック音楽等の体験プログラムを実施。	—	◎			○		○	⑤教育	○		○					令和2年度は、「アートのじかん」として実施。20校1,030人が参加。	文化芸術振興課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
9	一般財団法人地域創造負担金	継続	地方公共団体との連携の下に、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくり等を行うとともに、地方公共団体が実施する活動を支援する(一財)地域創造に対して分担金を負担する。	5,021	◎														一般財団法人地域創造に対し、宝くじ(芸術文化くじ)の持寄額に応じた分担金を負担した。	文化芸術振興課
10	県内文化情報提供事業	継続	県域での各ジャンルの文化芸術活動を網羅した総合的な情報冊子「れいかる」を発行するほか、県の歴史や自然、芸術などを幅広く紹介する湖国の総合文化誌「湖国と文化」を県内外に配布し、滋賀の多様な文化を紹介する。	5,971	◎							○		○			○		○れいかる 発行部数:30,000部(年5回発行、1回あたり)、配布先:496カ所 ○湖国と文化 配布部数:430部(年4回発行、1回あたり)	文化芸術振興課
11	文化施設長寿命化等推進整備費	継続	「文化産業交流会館長期保全計画」に基づき、予防保全の観点から施設の予防保全対象部位の修繕や改修工事を適切な時期に実施する。	1,660	◎														令和元年度より改修を進めてきた直焚き吸収冷温水機の更新工事が完了。加えて、自家発電装置および空調設備の改修を行った。	文化芸術振興課
12	アール・ブリュット連携組織事業	継続	アール・ブリュットに関する情報交換を行う全国的なネットワークを運営し、フォーラムや交流会の開催、メールマガジンの発行等を行う。	1,999	◎	○			○			○	○	○					○メールマガジンの発行回数 22回 ○ネットワーク会員数 計 1,396 団体会員 199(うち滋賀県38) 個人会員 594(うち滋賀県144) 情報会員 603 ○オンラインフォーラムの開催	文化芸術振興課
13	アール・ブリュットの魅力発信事業	継続	アール・ブリュットの魅力を広く発信し、文化観光の推進に寄与するため、県内各地で作品展示および映像展示を行う。	3,231	◎			○	○				○						ショッピングモールや旅館、郵便局など県内11カ所で作品展示を実施した。	文化芸術振興課
14	アートのひろば事業	新規	美やアートを通じた交流や発信の機会を創出するため、びわこ文化公園をフィールドにアート等に関するイベント・ワークショップを開催する。	3,000	◎	○		○	○			○	○		○	○			—	文化芸術振興課
15	展覧会開催事業	継続	小中学生等の鑑賞を促進するため、観覧料の優遇等を実施する。	—	◎				○										こどもの日、家族ふれあいサンデー、体験学習の日、関西文化の日において観覧料の優遇等を行った。	安土城考古博物館
16	「近江の園芸特産団体」産地強化事業	継続	小学生等を対象としたお茶の淹れ方教室、製茶体験等を通して「近江の茶」の魅力を発信し、需要拡大を図る。	660	◎				○				○	○			○		小学生を対象にしたほうじ茶づくり教室や社会人を対象にしたお茶の入れ方教室を開催。 ・社会人対象のお茶の講話・淹れ方教室 2件 33名 ・小学生を対象としたお茶の講話・ほうじ茶づくり 1校 99名 ※新型コロナウイルス感染症による小学校休校の影響等により、お茶の淹れ方教室の開催回数が大幅に減少。	農業経営課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
17	高等学校文化祭事業	継続	第41回近畿高等学校総合文化祭滋賀県実行委員会に対して補助を行い、文化部活動のさらなる充実を図る。	42,000	◎	○								○					滋賀県高等学校文化連盟の以下の取組に対して、補助を行った。 ・滋賀県高等学校総合文化祭の開催 総合開会式と17部門の大会を実施 ・近畿高等学校総合文化祭への参加 総合開会式と14部門への参加 ・全国高等学校総合文化祭への参加 16部門への参加	高校教 育課
18	公文書館企画展示	継続	公文書館の認知度を高め、館が保有する歴史資料として重要な公文書等の利用を促進するため、年4回程度企画展を開催する。	86	◎				○										感染症対策などのタイムリーなトピックに基づく企画展を年4回開催するとともに、積極的に広報を行った結果、コロナ禍にもかかわらず、見学者数は昨年度実績を上回る923人となった。	公文書 館
19	しがこども体験学校 (体験プログラム)	継続	滋賀の自然や地域資源を活かした多様な学びの場を設けるため、「しがこども体験学校」の体験プログラムを充実し、様々な実体験をととして子どもの豊かな人間性や社会性を育む。	1,153	◎	○													○7月に119事業、10月に12事業、翌年1月に15事業の計146事業の体験プログラムの情報発信を県ホームページにて行った。 ○5月と2月の登録団体向け研修会については、集合型の研修会は中止し、「安全管理マニュアル」の送付や講演内容をオンデマンド配信することに変更した。	子ども・青 少年局
20	県立施設の無料開放	継続	家族のふれあいを深め、体験の機会を充実させるため、「家族ふれあいサンデー(毎月第3日曜日)」と「体験学習の日(毎週土曜日)」に県立施設の無料開放を行う。	0	◎								○				○		「家族ふれあいサンデー」と「体験学習の日」に県立施設5施設の無料開放を実施した。	生涯学 習課
21	学校・家庭・地域連携 協力推進事業(放課 後子ども教室・土曜 日の教育支援事業)	継続	市町が取り組む、放課後子ども教室や土曜日の教育支援事業を支援する。	32,332 (市町補助 分)	◎		○			○	⑤教育			○	○	○	○		○放課後子ども教室:6市町31教室実施 ○土曜日の教育支援活動:3市町29教室実施 ※予算額は、事業区分の変更により、市町補助額を記載。	生涯学 習課
22	地域で学ぼう「出前講座」	継続	滋賀県学習情報提供システム「におねっと」において、県機関、企業、団体等が地域に Outreach して実施する「出前講座」を広く紹介し、公民館、自治会、子ども会等の生涯学習活動の支援を行う。	0	◎														地域等における生涯学習の機会として、講座の活用を促すことにより、学びを通じた人と人、人と社会のつながりを構築できた。 ・令和2年度 実施回数 2,299回 受講者数 90,837人(いずれも県機関のみ) ・令和2年度登録講座数:153講座(県機関43、その他59)	生涯学 習課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
23	学習情報提供システム整備事業	継続	県民の主体的な生涯学習を支援するため、講座等の学習機会の情報提供をはじめ、様々な生涯学習に関する情報を提供する。	6,343	◎														学習情報提供システム「におねっと」を運営し、学習機会を提供した。 アクセス数 267,546件	生涯学 習課
24	子どもの読書啓発冊子・ポスターの作成	継続	子どもの発達段階に応じた、本の紹介や読書の楽しさを伝える冊子やポスターを作成し、配付する。	971	◎														○子ども読書啓発冊子16,000冊(乳幼児・保護者向け) ○おすすめ本ポスター 2,300枚(小学校下学年向け) 2,300枚(小学校上学年向け) 2,000枚(中学生向け) 775枚×2種類(高校生向け)	生涯学 習課
25	生涯学習推進事業	継続	生涯学習に関する様々な情報提供、多様な学習ニーズに対する学習相談および視聴覚教材の貸出を行う。	76	◎														○学習相談:70件 ○視聴覚教材貸出:243件 ○視聴覚機器貸出:557件	生涯学 習課
26	障害者造形活動推進事業	継続	障害のある人の造形作品の紹介にとどまらず、一般アーティストの作品とともに並列して見せる企画展の開催など、ボーダレス・アートミュージアムNO-MA(運営:社福)グローが行う活動に対して補助を行う。	18,000	◎			○		○	④福祉	○	○	○	○	○	○		○「Co-LAB#1, 2, 3」開催 入場者 728人 ○「文字模似言葉(もじもじことのは)」開催 入場者 506人	障害福 祉課
27	障害者アート公募展開催推進事業	継続	障害のある人の造形作品の発表機会の拡充を図るため、公募作品展を開催する。	4,700	◎			○		○	④福祉	○	○	○					○湖北巡回展 展示15点 来場者292人 ○びかつtoアート展 応募268点 展示90点 来場者1,292人	障害福 祉課
28	障害者芸術文化活動支援センターの運営	継続	障害者の芸術文化活動にかかる支援方法や権利保護等に関する相談対応、情報発信、発表の機会の確保等を行う支援センターの活動に対し、補助を行う。	8,000	◎		○			○	④福祉		○		○	○	○		○相談支援 ○人材育成 ○ネットワークづくり ○発表等の機会の創出 ・施設・学校合同企画展来場者698人 ・おともだちひろっぱの開催 ○情報収集・発信	障害福 祉課
29	たんぼのこ体験事業	継続	子どもたちが農業体験を通じて、農業への関心を高め、生命や食べ物大切さを学ぶ「農からの食育」を推進するため、小学生自らが田んぼや畑に入り農産物を「育て」、「収穫し」、「食べる」という一貫した体験学習の取組を支援する。	— (自治振興交付金)	◎				○	○	③産業					○	○		県内の小学校201校が参加した。	食のブ ランド 推進課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
30	「やまのこ」事業	継続	森林への理解と関心を深めるとともに、次代を担う子どもたちの人と豊かにかかわる力を育むため、学校教育の一環として、小学4年生を対象に森林体験学習を実施する。	113,976	◎				○	○	③産業				○		○		県内の小学校206校、小学4年生12,594人の児童生徒等に、森林体験学習を中心とした文化体験等の機会を提供した。	森林政策課
31	おはなし会の実施	継続	子どもたちがものがたりや本に親しむ場として、絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター、素話などを行うおはなし会を実施する。	0	◎														新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	図書館
32	書庫見学会の実施	継続	利用者が日頃目にすることがなく、要望も高い書庫内の見学(文化ゾーン内の各施設と連携し、年3回実施)を通して、資料の収集、整理や保存の大切さを知ってもらうとともに、貴重なものを含む、様々な資料を身近に見ていただくことにより、文化芸術に触れるきっかけとなる機会を提供する。	0	◎									○					新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	図書館
33	図書資料等購入事業	継続	新刊図書のなかから県立図書館の蔵書としてふさわしい図書を重点的に収集し、県民に提供する。また、参考図書など、電子情報として利便性が高い資料については、積極的にメディア転換を行い、利用の促進を図る。	56,855	◎														18,679冊の図書を整備し、逐次刊行物については雑誌412誌、新聞18紙を購入して提供。また、電子情報サービスとして、オンラインデータベース7点を導入した。	図書館
34	教育・コミュニケーション事業	継続	地域の施設や学校、団体等と連携し、県内各地で美術の魅力に出会い楽しむことができるプログラムを提供するとともに、持続的な観覧者数の拡大に向けて、メンバーシップ制度を運営する。	7,470	◎		○			○	⑤教育	○		○	○	○	○		○学校出前授業プログラム 68か所 3,534人 ○地域出前プログラム(講座・ワークショップ・鑑賞) 31か所 1,005人 ○たいけんびじゅつかん(親子対象ワークショップ) 2か所 51人	美術館
35	展覧会開催事業	継続	県民をはじめとする来館者に優れた美術作品の鑑賞機会を提供するため、多種多様な展覧会を積極的に開催する。	87,615	◎	○		○											令和3年6月の再開館に向けて、展覧会の開催準備を行った。	美術館
36	美術品保全収集管理事業	継続	県民に優れた美術作品の鑑賞機会を提供するため、美術作品の収集、修復を行う。	2,500	◎														作品収集方針に基づき、購入や寄贈により作品の収集を行った。(収集体数22件)	美術館
37	みんなで創る美術館プロジェクト事業	新規	大学との連携により、滋賀の美の資源に関する調査・展示を行うとともに、県民参加による文化ゾーン内のモニュメント等の設置等を行う。	6,000	◎	○				○	⑤教育								—	美術館

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラン ティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
38	展示事業(常設展・企画展)	継続	「湖と人」のよりよい共存関係をめざして、琵琶湖等の地学、歴史、環境、水族の展示を実施する。	88,186	◎				○							○			琵琶湖博物館のテーマ「湖と人間」に沿った展示を行い、琵琶湖とそこに暮らす生きもの、湖と人との関わりについて来館者の理解を深めることができた。また、リニューアルにより体感型・参加型展示や実物資料の展示、交流の場が増えたことにより、来館者の満足度を高めることができた。	琵琶湖博物館
39	世界にひとつの宝物づくり事業(つつこプログラム)	継続	子どもや障害者が、地元作家や地域ボランティア等との協働により、「土」という素材を用いて、ものを作ることの喜びや感動を体感することにより、心豊かな人材育成を目指す。	1,500	◎		○			○	⑤教育	○		○	○		○		子どもや障害者等を対象に、陶芸の森での来園制作や小学校等での制作体験活動を実施した。 実施件数:196件 参加者数:8,825人	モノづくり振興課
40	陶芸の森事業	継続	伝統文化であり、地場産業である信楽焼の産地に位置する陶芸の森において、陶芸専門の展覧会や、国内外の陶芸家を対象とした滞在型創作研修「アーティスト・イン・レジデンス」、地元陶芸家が作品を販売する「セラミック・アート・マーケット」等の事業を実施する。	173,539	◎			○		○	③産業	○		○	○		○		○展覧会 ・リサ・ラーソン展 観覧者:9,414人 ・湖国滋賀の陶芸展 観覧者:6,496人 ・奇跡の土展 観覧者:8,464人 ・神業ニッポン 明治のやきもの展 観覧者:764人 ※令和3年度へ継続 ○セラミック・アート・マーケット 来園者:30,238人	モノづくり振興課
41	「うみのこ」事業	継続	学校教育の一環として、県内小学5年生を対象に、母なる湖・琵琶湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育を展開する。	317,941	◎				○		⑤教育			○	○		○		103航海を実施し、県内の小学5年生等13,747人が乗船した。	幼小中教育課
42	「広げよう創造の翼」文化部活動活性化プロジェクト	継続	令和3年度に本県で開催される近畿高等学校総合文化祭に向けて、県立学校の文化部活動をより充実させるため、県内の文化施設、大学等と連携し、専門家による指導を受けたり、本格的な会場を使用した研修や発表を行うことにより、生徒の技能や顧問の指導力の向上を図る。	1,214	○	◎	○					○		○					各部会において、以下の取組を実施した。 演劇部会:演劇演出講習(照明・装置) 器楽・管弦楽部会:実技指導 日本音楽部会:技術講習会 美術・工芸部会:施設見学・制作活動 囲碁部会:指導対局 将棋部会:指導対局 合唱部会:発声・合唱指導	高校教育課
43	しが学校支援センター	継続	地域の人々や企業・団体・NPOが提供する学校支援事業を、学校の希望に応じて学校支援コーディネーターが実施に向けた調整を行う。	2,208	○	◎				○	⑤教育	○	○	○	○		○		○連携授業コーディネート校数 67校 ○学校支援メニュー 184団体、301メニュー	生涯学習課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
44	美の資源活用推進事業	新規	アートや暮らしの中にある美の資源を活用して、地域を元気にする取組を行う民間団体等へ支援を行う。	6,351	○	◎	○					○	○	○		○			令和2年度「美の滋賀」プロジェクト推進事業において、滋賀の持つ美の資源の魅力を高めるとともに、県内各地で行われているアートや暮らしの中にある美の資源を活用して地域を元気にする取組を一元的に情報発信した。 採択団体 8団体	文化芸術振興課
45	環境学習センター事業	継続	県民や各種団体等が行う環境学習や活動がより良いものとなるよう支援するため、情報の提供、交流機会の提供、環境学習に関連した各主体の連携等に取り組む環境学習センターを運営する。	13,300	○	◎	○									○			ウェブサイトやメールマガジンで環境学習プログラム・講師などの情報提供を行うほか、環境学習推進員による相談や企画づくり、交流や発表の場づくりなどにより環境学習や活動を行う者を支援することで、県民の環境意識の高揚と環境保全活動の促進につながった。	琵琶湖博物館
46	(公財)淡海文化振興財団運営事業費補助金	継続	地域づくりやまちづくり、福祉、環境、文化等の様々な分野における県民の主体的な社会貢献活動を総合的に支援する(公財)淡海文化振興財団の運営に対して補助する。	47,874	○	◎													(公財)淡海文化振興財団において、地域づくりやまちづくり、福祉、環境、文化等の様々な分野における県民の主体的な社会貢献活動を総合的に支援した。	県民活動生活課
47	滋賀県芸術文化祭開催事業	継続	県民の意欲的な創作活動の発表の場を提供し、文化芸術に親しむ機会とするため美術展覧会等を開催するとともに、県内の文化団体、市町等が実施する事業を参加事業として位置づけ、一体となって実施する。	23,450	○	◎	○					○	○	○			○		主催事業、参加事業あわせて20万人以上の県民が来場し、文化芸術の鑑賞機会を広く提供した。また、美術展、写真展、文学祭において総計1,643作品の応募があり、創作活動の発表の場を提供した。	文化芸術振興課
48	文化振興推進事業 (文化・経済フォーラム支援事業)	継続	文化、経済、行政など多様な主体の協働により、県内の文化活動を活性化し、滋賀県の文化と経済の発展に寄与することを目的とする「文化・経済フォーラム滋賀」の取組に対して支援する。	320	○	◎				○	③産業		○	○					○「2020文化で滋賀を元気に！賞」大賞1団体、各賞3団体を表彰。 ○文化で滋賀を元気に！シンポジウム「アートよし/地元よし/未来よし 新・三方よしのつくり方」をテーマに開催。 ○文化ビジネス塾「アートを地域のプラットフォームに」をテーマに、山中suplexを訪問し実施。 ○文化経済サロン「文化芸術と地域の活性化～共生社会の実現に向けて～」をテーマに開催。 ○発足10周年記念講演会「コロナ新時代 元気が出るのう(脳)」のタイトルで講演会を開催。	文化芸術振興課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
49	芸術文化祭オープニング事業	新規	県内の文化団体と連携して幅広い文化活動者の発表の機会を創出し、また県民が文化芸術に触れるきっかけを作ること、芸術文化祭の周知を図る。	3,950	○	◎		○				○	○	○					—	文化芸術振興課
50	学校教育関係行事の後援等の承認および賞状交付	継続	公的機関、各種団体等が主催する学校教育関係行事に対して共催・協賛・後援を行うとともに、賞状を交付する。	0		◎													新型コロナウイルス感染症の影響による事業の中止があり、後援の承認は2件となった。	高校教育課
51	県民文化活動奨励事業	継続	民間団体等が主催する文化芸術行事への後援、賞状交付、広報協力などを行う。また、beyondの認証を実施し、オリパラに向けた文化プログラムの機運醸成を図る。	0		◎													文化芸術行事の後援等を通して、民間団体等の文化芸術活動を支援した。 ・後援件数:168件 ・beyond認証件数:670件	文化芸術振興課
52	国民文化祭視察	継続	本県での国民文化祭の開催について検討するため開催地を視察し、情報収集や関係者等との意見交換を行う。	12		◎													新型コロナウイルス感染症の影響により、国民文化祭が延期されたことから、視察も延期とした。	文化芸術振興課
53	文化施設管理運営費(相談窓口機能の充実)	継続	文化団体や県民からの文化芸術活動に関する相談に対応するため、県立文化施設などに設置している相談窓口機能を充実する。	—		◎													県内吹奏楽部や軽音楽部の演奏会に関する舞台演出に関してアドバイスをを行った。また、地元の邦楽関係者からプロ演奏家の招聘にあたっての待遇等について問い合わせがあり対応した。	文化芸術振興課
54	交流・サービス事業	継続	自主的・主体的に博物館活動へ参加する「はしかけ制度」「フィールドレポーター制度」への支援、体験学習プログラムの実施や講演会・観察会の開催、教員研修の取組など、地域や学校等と協働事業を実施する。	1,583	○	○	◎									○			観察会・見学会は外部団体との共催が多く、地域の多様な主体との連携を進めることができた。また、はしかけは26グループと多様化しており、県民の自主的・主体的な活動を推進することができた。さらには教員研修の取組を進め、博物館を活用するための教員の資質向上に努めることができた。	琵琶湖博物館
55	障害者の表現活動の地域拠点づくりモデル事業	継続	障害のある人の表現活動が、地域主体の自立的な活動として展開されるよう、地域での活動の基盤を形成するため、それを支える人材の育成や支援ノウハウの共有を行う事業に対し補助を行う。	4,000		○	◎			○	④福祉	○							○障害者の表現活動を推進する人材育成プログラム 音楽・ダンス、地域の民族芸能体験ワークショップ、現代音楽ワークショップ、意見交換会 ○支援ノウハウの共有 —糸賀一雄記念賞音楽祭における成果発表等 ○活動記録の情報発信	障害福祉課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
56	子ども読書ボラン ティアへの研修事業	継続	子ども読書活動に関わるボランティアを対象に、子どもの読書活動への理解やおはなし会などでの活動のスキルアップ等を目的とした講座を開催する。 読み聞かせ等により親子の思いを伝え合う「おうちで読書」推進事業により、読書ボランティアの活動の幅を広げ、質を高める技術の習得の機会とする。	107			◎						○		○		○		○学校・図書館・ボランティアを結ぶ実践発表会（2回）参加者 51名 ○おうちで読書 ブース出展のためのボランティア研修会 参加者 33名 ※子ども読書ボランティア研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度に延期。	生涯学 習課
57	ヘリテージマネー ジャー養成講座	継続	地域での文化財の保存・継承と活用を推進するリーダーとして、ヘリテージマネジャーの育成を支援するため、民間で実施される講座へ講師を派遣するなどの支援を行う。	0			◎		○				○						令和2年度は養成講座の開催なし。	文化財 保護課
58	びわ湖ホール管理運 営費(文化ボランティ アの育成)	継続	びわ湖ホールにおいて文化ボランティアなどの拡充および活動の促進を図る取組を実施する。	—			◎								○				「舞台芸術愛好の輪」を広げるため、公募により「びわ湖ホール劇場サポーター」122名を登録し、広報等に協力いただいた。例年開催している春の音楽祭が中止となったため、公演運営の補助等の活動は実施できなかった。	文化芸 術振興 課
59	文化施設管理運営費 (アートマネジメント 研修)	継続	文化活動の企画・運営をマネジメントし、文化芸術と地域社会を結びつけることができる人材を育成するための研修を実施する。	—			◎							○					「文化ホールと大学は地域の文化振興にどう貢献できるのか」をテーマに議論した。邦楽演奏家の育成に尽力している音楽大学関係者や県内邦楽関係の指導的な立場にある方々に今後の邦楽界の展望について議論を深めていただいた。参加者26人。	文化芸 術振興 課
60	文化施設管理運営費 (次世代育成ユースシ アター)	継続	青少年がミュージカルに参加するなかでコミュニケーション能力を高め、創造力を育みながら成長する機会を提供する。約30日間の稽古を経て自主公演を実施する。	—	○		○	◎											小学3年生から20代までの参加者33名が、宮沢賢治の名作「銀河鉄道の夜」をミュージカルとして上演し、469名が来場した。	文化芸 術振興 課
61	文化施設管理運営費 (邦楽専門実演家養 成事業)	継続	次代を担う中堅・若手の箏曲演奏家の育成を目的に研鑽の機会を提供する。プロ講師による実技(箏、三絃、十七絃)指導を受け、修了演奏会で成果を披露する。	—	○			◎				○							13名の次代を担う中堅・若手の箏曲演奏家が18日間(月2回程度、約6か月間)の稽古を経て演奏会で成果を披露した。入場者112人。	文化芸 術振興 課
62	文化施設管理運営費 (びわ湖ミュージック フォレスト)	継続	滋賀県ゆかりの新進アーティストを育成、支援するとともに、県北部地域の県民にクラシック音楽に親しんでいただく機会を提供する。	—	○			◎				○							令和2年度は、「びわ湖アンサンブルフォレスト」として開催。6公演で504名が来場。	文化芸 術振興 課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
63	しがの漁業魅力発信 スキルアップ事業	新規	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、琵琶湖で働く新しい生き方を支援するため、担い手の販売スキル向上のための意識醸成、学びあいの場を提供するとともに、就業希望者の受け入れ態勢の充実を図る。	13,780				◎					○						—	水産課
64	淡水真珠母貝の生産 安定化研究	新規	淡水真珠養殖業の振興を目的に、真珠生産量の安定・増加および品質の向上につながる技術を開発する。	757				◎					○						—	水産試験場
65	滋賀の匠クラウドファンディング支援事業	新規	クラウドファンディングを活用した新規顧客の獲得や販路拡大、新商品制作のための資金調達を目指す伝統的工芸品等事業者への支援を行う。	2,882				◎											—	モノづくり振興課
66	近江の地域産業振興 総合支援事業	継続	本県の優れた地域資源である地場産業等の「稼ぐ力」を高め、地方創生の核となる新たな成長産業として育成するため施策推進協議会の運営を行うとともに、時代の変化に適合する新たな取組を総合的、継続的に支援する。	27,550				◎		○	③産業								商品開発や販路開拓に取り組んだ事業者の数:14件	モノづくり振興課
67	「滋賀県モノづくり・匠の技展」開催事業	新規	伝統的工芸品等の手仕事の技術の高さ・実用性・美といった価値を広く県民に伝えるため、体験・実演・展示・販売の総合的な取組を実施する。	2,845				◎											—	モノづくり振興課
68	文化功労者顕彰事業	継続	本県文化の振興のため、顕著な功績のあった方や将来が期待される方を顕彰する。	654				◎				○					○		文化賞1団体、文化功労賞2名・2団体、文化奨励賞2名、次世代文化賞1名を顕彰し、贈呈式を県公館で開催。	文化芸術振興課
69	未来へつなぐ しが文化活動応援事業	継続	新型コロナウイルス感染症の影響により、公演等の活動機会を失った文化活動関係者の活動継続を支援するため、感染症対策を実施しながら再開する文化活動に対し支援する。	77,639	○	○		◎				○	○	○			○		8月から受付を開始し、223件の文化活動に対し支援を行った。また、支援した文化活動について、その様子をまとめた動画や事業報告書を県のホームページに公開し、より多くの県民に伝わるよう努めた。	文化芸術振興課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
70	文化芸術公演支援事業	継続	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行いながら、文化芸術公演を実施する利用者に対し、施設使用料の支援を行う。	91,930	○	○		◎						○			○		県内文化ホール45施設を対象とし、文化芸術公演を実施する施設の利用に対して施設利用料の支援を行った。 補助件数:123件、補助額:8,566千円	文化芸術振興課
71	国宝延暦寺根本中堂等保存修理	継続	長期間、保存修理に入る国宝延暦寺根本中堂・重文同廻廊の保存修理事業の期間中、観光客の減少をできるだけ少なくするため、所有者が実施する魅力発信事業に対して支援する。	20,000				○	○	◎			○				○		保存修理工事を1件、情報発信に係る業務委託を1件発注し、現在も継続して実施している。	文化財保護課
72	文化財建造物保存修理現場見学会	継続	県が受託し実施している国・県指定建造物の保存修理現場見学会を開催し、当課専門職員による伝統的な修理技法等の解説を行い、また実際の修理体験を通じて、本県の文化財建造物や歴史・文化に対する理解を深める。	0	○			○	◎				○						新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	文化財保護課
73	中山間ふるさと・水と土保全推進事業(棚田地域の総合保全対策)	継続	貴重な国民的財産である棚田について、その保全と地域の振興を図るため、「棚田ボランティア(人的支援)」や「棚田トラスト(寄付)」により、都市のボランティアと棚田地域とのネットワークを構築し、住民主体による継続的な棚田保全活動を推進する。	1,689				○	◎				○		○	○	○		○年2回のチラシ発行、HP、facebookを活用した情報発信を実施。また、ボランティア募集地域や参加者等で交流会を開催し、棚田保全についての意見交換を行った。 ○コロナ禍により活動を中止した地域もあったが、ボランティア活動回数は16回、参加者は延べ118人となった。 ○棚田トラストについては2件、30,000円の寄附があった。	農村振興課
74	近隣景観形成協定	継続	「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例」第28条に基づき、自治会などの地域を一つの単位として、住民自らが主体的に美しいまちづくりのための約束事や、協力して取り組む事柄について定めた協定を締結し、市町長が推薦し、知事が認定する制度を運営。この協定を締結した地域が行う修景事業に対して、市町が経済的な補助を行う場合に、県もこれを支援する。	-		○			◎							○	○		協定地区が実施した修景事業に対し、自治振興交付金の枠組みの中で支援した。 【支援実績】 1件(近江八幡市馬淵町岩倉)	都市計画課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
75	びわ湖のめぐみ食文化継承促進事業	継続	学校給食と連携し、県内の公立小学校等に通う児童を対象にびわ湖産魚介類を食材として提供。また、学校や親子活動、公民館活動などを対象に、琵琶湖の漁業や食文化を学べる職員による出前講座や漁業者による体験学習会を実施。	10,607	○				◎	○	③産業		○				○		<びわ湖のめぐみ食文化継承促進事業> ○湖魚食材の給食への提供。約12万7千食 ○青年漁業者による学校等への漁業体験会や出前講座を実施。 <びわ湖のめぐみ味つなぎ事業> ○広く一般への湖魚食の普及を図るため、湖魚取扱店監修のレシピ動画を配信。 ※令和3年度は、びわ湖のめぐみ味つなぎ事業は廃止。	水産課
76	「幻の安土城」復元プロジェクト	継続	安土城跡調査整備事業に向けて、全体計画を策定するとともに、デジタル技術を駆使した安土城復元の全体構想を策定する。あわせて、安土山図屏風をはじめとした安土城関連資料の情報収集のため、HPを作成する。	21,855	○				◎	○	②観光			○	○	○	○	有識者	安土山赤色立体地図および『安土城考古博物館展示基本計画書』を作成。	文化財保護課
77	安土城考古博物館管理運営費	継続	安土城考古博物館のテーマである城郭と考古を中心とした展示、普及啓発事業等の実施と施設の管理運営を指定管理者に委託するとともに、老朽化した設備の改修を行う。	146,847	○				◎				○						○入館者数 32,499人 ○春季特別展:コロナウイルス感染症のため中止 ○秋季特別展:信長と光秀の時代 ○第62回企画展:お城のリユース ○第63回企画展:琵琶湖文化館の「博物誌」	安土城考古博物館
78	指定文化財管理事業	継続	国指定文化財もしくは県指定文化財の所有者等が実施する維持管理等事業に対し助成を行う。	22,305	○				◎				○			○	○		国指定文化財は107件、県指定文化財は58件の補助を行った。	文化財保護課
79	指定文化財保存修理等補助事業	継続	指定文化財の所有者等が実施する保存修理事業等について助成を行う。また、市町教委が行う発掘調査や埋蔵文化財の分布調査等に対し助成を行う。	135,367	○				◎				○			○	○		国指定文化財は28件、県指定文化財は12件の補助を行った。	文化財保護課
80	琵琶湖文化館管理費	継続	休館中の琵琶湖文化館に収蔵している国宝・重要文化財を含む収蔵品の適正な保管を行うとともに、施設管理や広報活動等を(公財)滋賀県文化財保護協会に委託し、実施する。	21,763	○				◎										休館中の琵琶湖文化館に収蔵している国宝・重要文化財を含む収蔵品の適正な保管を行うとともに、ホームページや掲示板等による広報活動を行った。	文化財保護課
81	県有史跡地(近江風土記の丘)維持管理費	継続	近江風土記の丘(特別史跡安土城跡、史跡観音寺城跡、大中の湖南遺跡)の史跡地の保全・管理を行う。	2,631	○				◎				○		○	○	○		○特別史跡安土城跡、史跡大中の湖南遺跡で除草・伐木を実施。 ○史跡観音寺城跡はボランティア団体によって実施。	文化財保護課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
82	校内・校外学習サポ ート	継続	県内外の小中高校生・大学生・一般を対象とした安土城跡・観音寺城跡での現地校外学習授業のほか、各学校への出前授業、また各種団体からの要請による出前講座等で当課専門職員が講師を務める。	0	○				◎	○	⑤教育					○	○		○草津市老上やすらぎ学級歴史講座 40名 ○日野町立桜谷小学校6年生安土城見学13名 ○戦国ワンダーランド観光キャンペーン「戦国に笑う」連続講座 50名 ○湖北センゴクセミナー 70名	文化財 保護課
83	滋賀の文化財講座 「打出のコツチ」	継続	本県の国・県指定文化財等について、文化財調査による成果や保存修理等の取組内容を、当課専門職員等が自ら講師を務め、講座形式で紹介することにより、本県の歴史・文化に対する魅力の発信と、文化財に関する理解を深める。	260	○				◎				○						本県の国・県指定文化財等について、文化財調査による成果や保存修理等の取組内容を、講座形式で紹介することにより、本県の歴史・文化に対する魅力の発信と、文化財に関する理解を深めることができた。 6回開催 参加者数延べ499名	文化財 保護課
84	近江の文化財を活用 した県民・地域健康増 進事業	継続	魅力あふれる滋賀の歴史的環境を形作る多彩で豊かな文化財をウォーキングで巡ることで、滋賀の文化財の魅力の体感と県民や地域全体の健康増進を図る。	1,940	○				◎	○							○		健康ミニ講座と文化財ウォーキングを3コースで実施。 ・史跡紫香楽宮跡(42人) ・特別史跡彦根城跡と城下町(49人) ・特別史跡安土城跡と城下町(43人)	文化財 保護課
85	「近江の城」魅力発信 事業	新規	滋賀県が誇る文化財である「城」の魅力を広く全国に発信することで、滋賀の城や戦国への関心を高め、本県への来訪者の拡大を図る。	8,390	○				◎	○	②観光		○	○			○		—	文化財 保護課
86	「輪でつなぐ」滋賀の 文化財講座事業	新規	オンライン配信により文化財講座の受講機会を拡大し、文化財について広く県民に親しんでもらうとともに、市町博物館等との連携を図る。	900	○				◎		⑤教育			○			○		—	文化財 保護課
87	(仮称)新・琵琶湖文 化館の整備	新規	(仮称)新・琵琶湖文化館の整備を推進する。	1,533	○				◎										—	文化財 保護課
88	観光イベント推進事 業(近江のまつり育成 費補助金)	継続	文化的観光資源として名高く、長い歴史に培われた、「観光滋賀」を代表するにふさわしいと認められるまつりに対して補助を行うことにより、本県の観光振興の促進およびイメージアップを図る。	6,000	○				◎	○	②観光					○	○		○山王祭: 神輿行事の中止 ○長浜曳山祭: 中止 ○大津祭: 曳山巡行の中止 ○近江八幡の火祭り: ・八幡まつり 規模縮小 ・篠田の花火 規模縮小 ・左義長まつり 規模縮小	観光振 興局

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
89	日本遺産・琵琶湖魅力発信事業	継続	構成文化財に関わる観光まちづくり活動に対する補助に加え、本県6件の日本遺産の認知度向上、周遊観光を促進するため、日本遺産周遊事業を実施することにより、琵琶湖を中心に点在する本県の日本遺産を、面的・広域的に活用した周遊・誘客を図る。	4,100	○				◎	○	② 観光					○	○		○地域協議会観光まちづくり支援 9団体 ○パンフレット増刷 5,000部 ○構成文化財案内看板 7枚 ○滋賀の日本遺産カードめぐり	観光振 興局
90	江州音頭普及事業	継続	本県の代表的な郷土芸能である江州音頭を広く県内外に普及し、本県のイメージアップを図る。	1,900	○				◎	○	② 観光	○				○			○江州音頭フェスタ: 中止 ○江州音頭フェスティバル京都大会: 中止 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、主要行事が中止となったが、その中でも江州音頭をテーマとしたクラフトビールを作成するなど、江州音頭の普及に向けた取組を行った。	観光振 興局
91	景観保全・形成について	継続	ふるさと滋賀の風景を守り育て次代に引き継いで行くため、景観法に基づく届出制度等を活用し景観形成を行うとともに、県内の景観行政団体と連携し広域の景観課題への対応や県民向けの啓発活動等を行う。	3,443					◎										滋賀県景観行政団体協議会において、対岸からの広域的景観形成に関する課題研究ならびに 歴史的街道景観まちづくりに対する意識醸成に連携して取り組んだ。 【歴史的街道景観まちづくりタウンミーティング開催実績】 日野町 御代参街道 鎌掛宿	都市計 画課
92	「世界農業遺産」プロジェクト推進事業	継続	琵琶湖と共生する「滋賀の農林水産業」について、「世界農業遺産」の認定に向けた取組を推進し、強い農林水産業づくり、地域活性化の契機にするとともに、滋賀の農林水産業を健全な姿で次世代に引き継ぐ。	8,243					◎	○	③ 産業		○	○		○	○		○国連食糧農業機関(FAO)による「世界農業遺産」認定審査に対応。 ○琵琶湖と共生する持続的な農林水産業の認知度向上に向けた取組を実施(ロゴマークの公募・決定、商業施設・博物館でのPR活動等)。 ・ロゴマーク活用実績:31者 ・農業遺産ツーリズムとしての情報発信:24件	農政課
93	エコツーリズム推進支援事業	継続	エコツーリズムの推進に向けて、市町等とのネットワークを通じた情報共有等を行うとともに、県内のエコツーリズム事業者・団体のデータを見直し、「滋賀にしかないエコツーリズム」のホームページの更新を行う。	519					◎	○	② 観光		○				○		琵琶湖やそれを取り巻く自然・生活文化を体験・体感する滋賀ならではのエコツーリズムの推進に当たって、県内のエコツーリズムスポットを点から線、線から面へとつなぐモデルコースのパンフレット(英語版含む)を作成し、県内外に効果的な情報発信を行うことで、新たな魅力の創出や地域活性化につなげることができた。	琵琶湖 保全再 生課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
94	「彦根城」世界遺産登録推進事業	継続	彦根城の価値や魅力を世界に発信し、地域振興等に繋げるために、彦根市と協力し世界遺産登録の推進を図る。	9,300					◎				○	○			○		文化審議会から示された課題について、重点的に調査・研究を進め、推薦書原案の完成度を高めたとともに、彦根市商工会議所、滋賀県立大学と共同し寄付講座を行うなど、発信に努めた。	文化財保護課
95	県有史跡地維持管理費	継続	県有および県管理にかかる史跡地の除草等を実施し、適切に維持管理を行う。	5,059					◎				○			○	○		史跡近江国府跡・史跡堂ノ上遺跡・史跡近江大津宮錦織遺跡・史跡春日山古墳群・史跡紫香楽宮跡の5か所で除草・伐木を実施。	文化財保護課
96	公共事業関連緊急発掘調査費	継続	公共事業の円滑な推進を図るため、国土交通省等からの受託による公共事業関連発掘調査等を行う。	422,660					◎										12件の埋蔵文化財発掘調査を実施。(発掘調査7件、整理調査5件)	文化財保護課
97	里山と文化財が織り成す地域資産再生事業	継続	木々に埋もれた各種文化財の地域資産としての価値を高める里山整備に対して助成する。	1,610					◎							○	○		令和2年度は助成実績なし。	文化財保護課
98	試掘・確認調査	継続	文化財保護と公共事業との円滑な調整と事業推進をはかるため、埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施する。	6,212					◎										約10件の試掘・確認調査を実施。	文化財保護課
99	史跡公有化費	継続	地域の歴史にとって重要な価値を持つ史跡を適切に保存し、次世代に継承していくため、緊急性の高い土地の公有化を図る。	14,425					◎										史跡堂ノ上遺跡の2,698㎡の公有化を実施。	文化財保護課
100	特別天然記念物カモシカ生態調査	継続	特別天然記念物カモシカの保護のため、調査を実施する。	500					◎										令和2年度は調査実績なし。	文化財保護課
101	美術工芸品実態調査	継続	有形文化財のうち、建造物以外の美術工芸品(絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍・古文書、考古資料、歴史資料)の実態把握のため、詳細な調査や写真撮影を行う。	689					◎					○			○		美術工芸品の詳細な調査を実施し、実態把握を進めるとともに、県指定文化財の新指定候補を見出すことができた。	文化財保護課
102	未指定文化財調査	継続	県内に所在する文化財のうち、未指定である文化財の実態を調査し、指定の促進と保存活用を図るための調査を実施する。	172					◎										未指定文化財の調査を実施し、実態把握を進めるとともに、県指定文化財の指定に資する知見を得ることができた。	文化財保護課

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
103	重要伝統的建造物群 保存地区、重要文化 的景観技術支援事業	継続	重要伝統的建造物群保存地区、重要文化的 景観などの保存・継承のため、事業の実施 主体である各市に技術的支援を行っている。	0					◎										【伝建】大津市1件、彦根市3件、近江八幡 市9件、東近江市8件の計21件の対象物 件の修理・修景を行った。 【重文景】近江八幡市1件、東近江市6件の 計7件の対象物件の修理・修景を行った。	文化財 保護課
104	埋蔵文化財センター 管理運営費	継続	埋蔵文化財センターの維持管理のほか、埋 蔵文化財の保存・活用や公開展示、各種啓 発活動等を(公財)滋賀県文化財保護協会 に委託し、実施する。	25,032					◎					○					○入館者数 約2,700名 ○委託事業として体験学習3回、玄関ロ ビーでの遺物展示等を実施 ○11月3日の「文化ゾーンフェスティバル mini」の際に「Myぶんどキドキ観察会」と して、一般参加で土器の観察・絵画制作等 を実施(絵画作品提出者15名。作品は2月 25日～3月7日に埋蔵文化財センターで 展示)。 ○県立図書館談話室で県内発掘調査成果 パネル展を実施。	文化財 保護課
105	舞台芸術地域協働事 業	新規	県民誰もが文化芸術に親しめる機会の創出 や、文化芸術の創り手やつなぎ支える人材 の育成を図るため、舞台芸術公演を地域と 協働して実施する。	2,900		○		○		◎	③ 産 業	○	○	○			○		—	文化芸 術振興 課
106	近江文化発見・発信 事業	継続	滋賀ゆかりの文学作品等を通じて、県民が 滋賀の歴史・風土・文化・自然等の魅力を改 めて認識し、地域への愛着を深めるととも に、その魅力を発信する取組を行う。	6,000	○				○	◎	② 観 光		○						滋賀ゆかりの人物や土地が多く登場する 司馬作品の『国盗り物語』の朗読会を、作 品にゆかりのある三井寺を会場に実施。 参加者:45名	文化芸 術振興 課
107	文化プログラム推進 事業(外国人向け滋 賀の文化情報発信事 業)	継続	東京オリンピック・パラリンピックの開催効 果を活かし、滋賀ならではの文化の魅力を 世界に向けて発信するため、外国人向け文 化情報誌の発行等を実施する。	504	○					◎	② 観 光		○						芸術・歴史・伝統・食・暮らしといった滋賀 の文化資源の魅力が効果的に伝わる、訪 日外国人等をターゲットとした滋賀文化情 報誌(COOL SHIGA)を制作。 制作部数:5,000部	文化芸 術振興 課
108	美の魅力一体的発信 事業	新規	近代美術館に設置する美やアートを通じた 交流・発信の拠点となるプラットフォームに おいて、滋賀の美の魅力の一体的発信や、 関係施設のネットワーク強化・連携事業を展 開する。	9,000	○	○			○	◎	② 観 光	○		○					—	文化芸 術振興 課
109	映像誘致・ロケ支援事 業	継続	映画、テレビ等の映像を通じて本県の豊か な自然や歴史・文化遺産を広く発信するこ とにより、本県のイメージアップと観光およ び地域の振興を図る。	3,646					○	◎	② 観 光		○		○		○		滋賀県内での映画、ドラマ、テレビ番組な どの撮影等を誘致・支援し、映像や広報媒 体を通じて滋賀の魅力を国内外に広く発 信することができた。 ロケ実現数 106件	観光振 興局

No	R3年度事業名	新規/ 継続	R3年度事業の概要	R3年度 当初予算 額 (千円)	関連する重点施策 ◎:1つ必須 ○:任意で2つまで							事業において連携・協働している主体							R2年度取組結果	担当所 属
					重点 1	重点 2	重点 3	重点 4	重点 5	重点 6	連携 分野	①芸術 家・文化 団体	②民間団 体(企業・ NPOなど)	③文化 施設・教 育機関	④ボラ ンティア	⑤地域 住民・自 治会	⑥市町	⑦その 他		
110	忍者を活用した観光 誘客促進事業	継続	日本忍者協議会において関係自治体等と 連携しながら、日本固有の文化資産である 忍者コンテンツを発信し、国内外からの観 光誘客を促進する。	500					○	◎	②観 光		○						○文化庁補助金を活用した忍者コンテンツ 周遊のモデルコースを造成。 ○観光庁補助金を活用したアクティビティ 体験商品の実証実験を実施。	観光振 興局
111	美ココロ・パートナ シップ事業	継続	滋賀次世代文化芸術センターにおいて、適 応指導教室等の児童生徒を対象に文化芸 術体験プログラムを実施するとともに、若 手芸術家を「美ココロ・パートナー」として育 成する。	2,038	○		○			◎	⑤教 育								適応指導教室や特別支援学校等、16校・ 施設の215人の児童生徒等に芸術体験の 機会を提供した。また、感染症対策に万全 を期すため、「美ココロ・パートナー」の新規 の受け入れは中止し、経験豊富やパート ナーにて事業を実施。	文化芸 術振興 課
112	滋賀次世代文化芸術 センター運営助成事 業	継続	子どもを対象とした学校連携授業、文化ボ ランティアの育成、教員研修等を実施する 「滋賀次世代文化芸術センター」に対して補 助する。	9,800	○		○			◎	⑤教 育	○	○	○	○		○		学校連携授業は17校、3,903人に対して 実施。また、文化ボランティアの登録者数 は28人、教育研修はコロナ禍の影響によ り中止となった。事業規模は縮小したが、 コロナ禍においても継続して学校へ体験プ ログラムを提供できた。	文化芸 術振興 課
113	文化芸術による共生 社会づくり事業	継続	共生社会の実現に向け、障害の有無にかか らず誰もがともに文化芸術活動を通じて 交流し、相互理解を深める場を創出すると ともに、障害者等の文化芸術活動を支える 人材育成等を図る。	36,181	○	○				◎	④福 祉	○	○	○		○	○	福祉団 体	市町、文化団体、福祉団体等で構成する 「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委 員会を設置し、モデル事業として10事業 を実施。	文化芸 術振興 課
114	リオ・グランデ・ド・ スール州滋賀県姉妹 提携40周年記念事 業	新規	ブラジル・リオ・グランデ・ド・スール州と滋 賀県の姉妹提携40周年を迎えるにあたり、 現地日系コミュニティ等と連携し、日本文化 紹介イベント(日本祭り)において滋賀県の 文化等の魅力を発信する。	8,050		○				◎	①国 際交 流							日系団 体等	—	国際課
115	ミシガン州立大学連 合日本センター管理 運営事業	新規	ミシガン州立大学連合日本センターの取組 の一つとして、米国学生向けにオンライン講 座を行うにあたり、日本語だけでなく滋賀 県の文化芸術や観光などの魅力発信を行 う。	56,708	○					◎	①国 際交 流		○	○					—	国際課